Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 24第38号
2025年（令和七年） 1月10日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（12月26日～1月8日）の国際石油市場は、トランプ大統領の再任を待つ中、好調を続ける米国経済、大型の経済対策で回復が期待される中国経済、さらには、イスラエルをめぐる緊張が高まる中東情勢などを背景に、比較的堅調に推移した。

NYのWTI原油先物市場は、クリスマス休暇後の26日、69.62ドルで始まったが、27日には70ドルを回復、7日には2か月ぶり高値の74.25ドルまで上昇したが、8日には73.32ドルに反落して終わった。

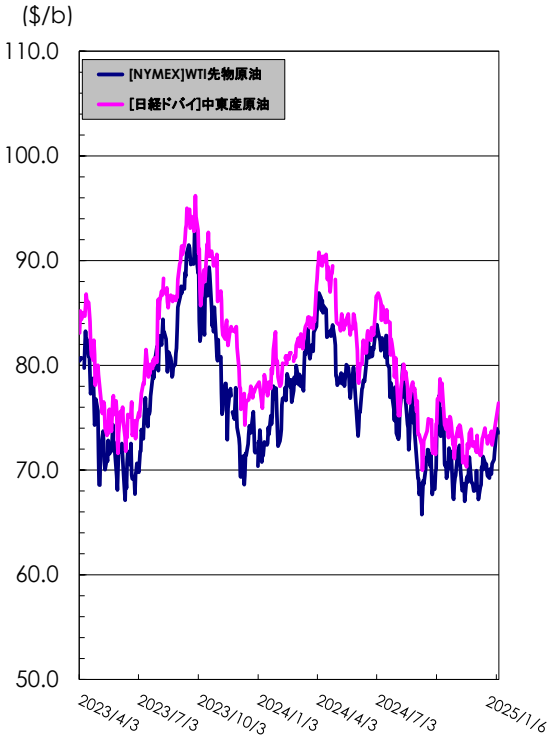
また、中東産ドバイ原油/東京市場（2月渡し）も、前週（12月19日～25日）は72.50～73.30ドルの範囲で推移したが、当週は、12月26日73.70ドル、27日72.40ドル、1月6日76.40ドル、7日76.50ドル、8日77.60ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（12月19日～25日）154.94～157.95円の範囲で推移したが、当週は、12月26日157.43円、27日158.18円、30日158.18円、1月6日157.73円、7日158.22円、8日158.09円だった。

そのような中で、1月6日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前月末（12月23日）比横ばい、軽油は同0.1円安、灯油は同4円高（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は180.6円となった。

1月9日～15日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は17.4円（補助金がない場合の次週予想価格197.3円で、168円から185円の補助率30%支給部分5.1円、185円を超える補助率100%支給部分は12.3円）と、実額ベースでは前週比2.4円の増額となった。

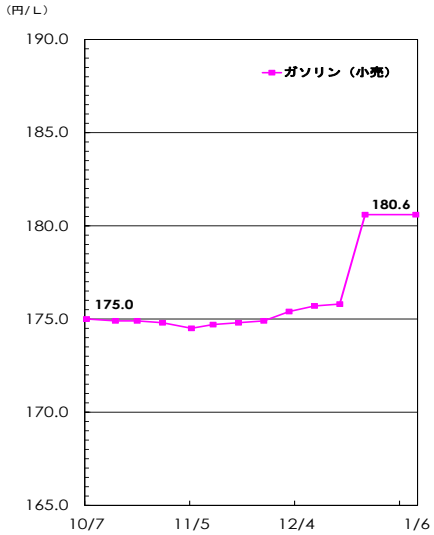
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	12/29 ～ 1/4	2,795	▼ -83	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	80.7	▼ -2.4	▼ －
	原油在庫量	（千kl）	1/4	10,594	▲ 701	▲ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	1/6	76.40	▲ 4.00	▲ 0.5
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	1/6	73.56	▲ 2.57	▲ 2.8
	原油CIF単価	（$/bbl）	12月上旬	77.25	▼ -0.58	▼ -13.05
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	74,818	▼ -697	▼ -8,736
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	153.97	▲ 0.30	▼ -6.87
	外国為替TTSレート	（¥/$）	1/6	158.73	▲ 0.45	▼ -13.75



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	在庫		1/4	1,756	▼ -47	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	12/24 ～ 1/6	83.0	▲ 1.0	▲ 2.0
		（TOCOM/中部）	12/26	86.0	➡ 0.0	▲ 7.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	1/6	180.6	➡ 0.0	▲ 5.1

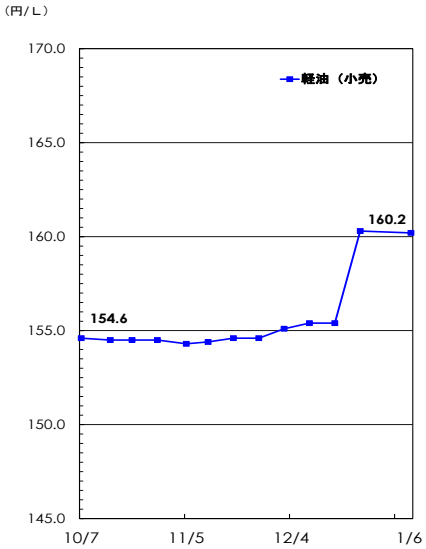
※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

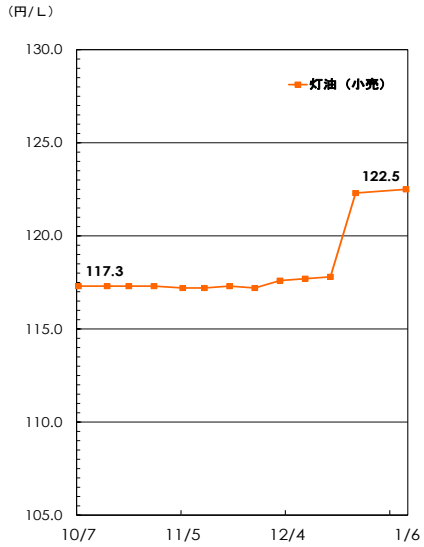
軽油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		1/4	1,574	▲ 246	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	12/24 ～ 1/6	86.0	▲ 1.3	▲ 2.6
		（TOCOM/中部）	12/26	–	–	–
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	1/6	160.2	▼ -0.1	▲ 5.1

※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		1/4	2,259	▲ 123	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	12/24 ～ 1/6	84.0	▲ 0.8	▲ 2.0
		（TOCOM/中部）	12/26	89.0	➡ 0.0	▲ 9.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	1/6	122.5	▲ 0.2	▲ 5.6



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（12月19日～25日）のNYMEX・WTI先物市場は69.24～70.10ドルの範囲で推移した。当週、12月26日は、世界銀行が中国の2024～5年の経済成長率を上方修正したものの、利食い売り、為替市場のドル高による原油先物の割高感から、反落した。2月物終値は前日比0.48ドル安の69.62ドル。

週末27日は、イスラエル軍がイエメンの親イラン武装組織「フーシ」に直接攻撃を実施、中東地域の緊張が高まるとともに、中国経済の回復への期待感、米国原油在庫の取り崩し報告から、反発、70ドル台を回復した。2月物終値は同0.98ドル高の70.60ドル。

週明け30日は、閑散とした商いの中、欧米の気温低下予想で、天然ガス価格が上昇、石油にも波及し、続伸した。2月物終値は同0.39ドル高の70.99ドル。

31日は、中国の12月製造業景気指数（PMI）が節目の50を超えたことから、景気停滞見通しが緩和、また、イスラエル軍・米軍はイエメンのフーシ派への攻撃を継続、緊張が高まり、3営業日続伸した。ただ、OPECプラスに参加するナイジェリアが25年の増産を発表、上値を抑えた。2月物終値は同0.73ドル高の71.72ドル。

1月1日は、休日につき休場。

年明け2日は、中国の習近平主席が、2024年の同国経済成長率は約5%、成長継続に向け積極対策を取ると発言、これへの期待感が高まり、4営業日続伸した。ただ、この日発表の米国原油在庫週報は取り崩しとなったものの予想ほど減少しなかった。2月終値は同1.41ドル高の73.13ドル。

3日は、中国が景気刺激策を発表、過度の警戒感は後退、また、欧米では寒波襲来観測で、需要増加が予想され、5日続伸した。2月終値は同0.83ドル高の73.96ドル。

週明け6日は、欧米寒波・中国景気回復期待の中、このところの高値に、利食い売りが相次ぎ、6営業日ぶり反落した。この日、トランプ政権は関税政策の限定を検討中との報道があり、一時買いが入ったが、後にトランプ氏本人が否定、買いは続かなかった。2月終値は同0.40ドル安の73.56ドル。

7日は、米国の12月非製造業景況感指数が前月比改善されるなど、米国経済の堅調、中国経済の改善期待が高まる一方、欧米の対ロシア・対イラン経済制裁の強化が予想されるなど、石油需給の引き締まり観測から、反発、10月中旬以来の高値を記録した。2月終値は同0.69ドル高の74.25ドル。

8日は、朝方、ロシアの生産減少で12月のOPECプラスの産油量が減少したとの報道で堅調に始まったが、米国石油在庫週報で、原油は取り崩されたものの、石油製品は予想以上の積み増しが報告され、需給の緩みが意識され、また、トランプ大統領就任に伴う追加関税賦課問題を契機にドル高が進行、原油先物の割高感から、反落した。米国の2月終値は同0.93ドル安の73.32ドル。

2　海外/米国石油市場

12月20日時点の米国石油在庫週報は、クリスマス休暇で2日遅れの27日発表され、原油が420万バレル減と市場予想（190万バレル）を大きく上回る取り崩し、中間留分も170万バレル取り崩しと市場予想（30万バレル）を上回る取り崩しだったが　、ガソリンは160万バレル増と予想に反する積み増しの結果となった。また、2日発表の27日時点の在庫は、原油在庫が前週比120万バレル減と市場予想（280万バレル減）を下回り、ガソリンが前週比770万バレル増と予想（30万バレル増）を上回る積み増し、中間留分が640万バレル増と予想（10万バレル減）に反する積み増しとなった。さらに、8日発表の3日時点の在庫は、原油100万バレル減と市場予想（20万バレル減）を上回る取り崩しであったが、ガソリンは630万バレル増で予想（150万バレル増）、中間留分は610万バレル増と予想（60万バレル増）を大きく上回る積み増しであったことから、需給緩和が意識された。

EIAによると12月30日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.8セント安の1ガロン3.006ドル（126.3円/㍑）と3週ぶりの値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比2.7セント高の1ガロン3.503ドル（147.1円/㍑）と2週ぶりの値上がり。また、1月6日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.1セント高の1ガロン3.047ドル（127.6円/㍑）と2週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比5.8セント高の1ガロン3.561ドル（149.1円/㍑）と2週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、12月27日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比横ばいの483基となった。また、1月3日時点では、前週比1基減の482基となった。

3　国内/原油処理量

石連週報によれば、2024年12月29日～2025年1月4日に休止したトッパー能力は17.3万バレル/日で、前週に対して6.4万バレル/日増加した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は279.5万klと、前週に比べ8.3万kl減少。前年に対しては15.3万klの減少。トッパー稼働率は80.7%と前週に対して2.4ポイントの減少、前年に対しては1.3ポイントの減少となった。

4　国内/製品在庫量

1月4日時点の在庫は、ガソリン、ジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった

ガソリンは175.6万kl、前週差4.7万kl減。前年に対しては8.5万kl多い。

灯油は225.9万kl、前週差12.3万kl増。前年に対しては19.1万kl少ない。

軽油は157.4万kl、前週差24.6万kl増。前年に対しては2.1万kl少ない。

A重油は79.8万kl、前週差7.4万kl増。前年に対しては5.4万kl多い。

C重油は168.3万kl、前週差7.1万kl増。前年に対しては26.5万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (1/4)	前週 (12/28)	前週比
ガソリン	1,756	1,803	▼ -47 (-3%)
ジェット燃料	782	804	▼ -22 (-3%)
灯油	2,259	2,136	▲ 123 (6%)
軽油	1,574	1,328	▲ 246 (19%)
A重油	798	724	▲ 74 (10%)
C重油	1,683	1,612	▲ 71 (4%)
合　計	8,852	8,407	▲ 445 (5.3%)

5　国内/元売会社製品卸価格

12月24日～1月6日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替レートも円安が進み、元売会社の卸建値は値上がりしたものと見られる。1月9日からの補助金は増額されるものの、1/9～1/15の実質卸価格は値上がりとなる模様。

6　国内/製品小売価格

1月6日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの180.6円、軽油は同0.1円安の160.2円、灯油は18㍑ベースで同4円高の2,205円（1㍑ベースでは0.2円高の122.5円）。ガソリンは8週ぶりに値上がりが止まり、軽油は8週ぶりの値下がり、灯油は5週連続の値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが24都道府県、横ばいは7県、値下がりは16府県だった。全国最安値は岩手県の173.2円、その次は愛知県の174.1円であった。他方、最高値は長野県の190.7円。最も値上がりしたのは沖縄県（同3.3円高）、最も値下がりしたのは山口県（同2.1円安）だった。

次回調査時（1/14）のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(1/6)	前週　(12/23)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	180.6	180.6	➡ 0.0	23/9/4	186.5
	灯油	122.5	122.3	▲ 0.2	08/8/11	132.1
	軽油	160.2	160.3	▼ -0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2024第39号）の公表は、1/17（金）14:00 です。

2024年12月より石連週報の公表内容の見直しがあり、「3.国内/製品出荷量」の項目・内容を変更しました。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。